

平成 28 年度長野市健康増進・食育推進審議会（第 3 回）議事録（概要）

と き 平成 28 年 9 月 21 日（水）
午後 1 時 30 分

ところ 長野市保健所 会議室 B

出席者：中村会長、村澤福会長、上條委員、北川原委員、北澤委員、黒岩委員、小泉委員、佐藤委員、清水委員、鈴木委員、谷委員、玉井委員、玉木委員、花岡委員、宮澤委員、柳澤委員、山口委員、若林委員

欠席：重倉委員

1 開 会

2 あいさつ 小林保健所長、中村会長

3 議 題

(1) 次期長野市健康増進計画・食育推進計画（素案）について

ア 基本理念等について

資料 1

「追加資料（目次から自殺対策分野を削除）」について。

自殺対策計画の自治体における独自策定が義務化された。また、自殺の理由も多岐にわたるため、現時点で本市としては健康増進計画から自殺分野を除き、自殺対策計画は独立した計画にしていくことになった。

イ 第 3 章 具体的な施策の展開について

資料 2

(2) その他 特になし

4 そ の 他

(1) 第 4 回長野市健康増進・食育推進審議会

- ・と き 平成 28 年 10 月 21 日（金）13 時 30 分～15 時 30 分
- ・ところ 長野市保健所 会議室 A B
- ・議 題 次期長野市健康増進計画・食育推進計画（素案）について 他

5 閉 会

6 議題における意見等

「基本理念・第 2 章について」

(委員)

「健康寿命の算出方法について。長野県では介護認定データからとっている。算出の仕方で変わってくる。長野県の算出方法と国の算出方法で数値が異なる。なぜこの算出方法を選んだのか。」

(事務局)

「できれば国・県・市で比較できればいい。国の国民生活基礎調査では、市町村の健康寿命のデータは出ない、県レベルになる。また、国の規模に準じた調査は市レベルではできない。多くの中核市、市町村で介護認定度データを活用して算出している。本市もこれですとやって来ている。今よりも健康寿命を延伸させていく、ということでこの客観的データで使っていきたいので、この算出方法でやっていきたい。」

(会長)

「基本理念・キャッチフレーズについてはどうですか。」

(委員)

「生活困難者とか、病気で働きたくても働けない人、自殺に追い込まれるまで追い込まれる、弱者にまで目が行き届かない。普通な生活ができる、住み慣れたところで生活できたらと思うし、『支え合い』という言葉が入った案3がよいと考える。」

(会長)

「乳幼児から高齢者まで、全ての世代、食育も入っているし、小さな頃から施策に適用できるもの。今までの施策では『いきいき』などは高齢者対象（偏見かもしれないが）という感じがする。少し幅広く、年代がそれほど特定されず、全ての世代に対して。」

(委員)

「私も同じで、子どもから高齢の方まで、健康で暮らして行かれる、ということが一番大事だと思う。食育もそうだし、歯もそうだし、やはり経験豊富な方からいろいろ教えてもらうことが大事。全ての人が、健康を意識できるような基本理念があればいいな、と思う。案1、案2、案3のどれがいいと言うわけではないが、全世代が健康を意識できるようなものがあればいいと思う。」

(委員)

「案1、案2、案3、どれもいい案だ。「住み慣れた」「支え合い」は高齢者、「すこやか」「次世代」というと若い人をイメージし、「生涯にわたって」は全世代をイメージするが、案1は言葉が足りない。この中から決めるというのは難しいと考える。」

(事務局)

「これは練りに練った案でもある。案3については介護のイメージが強いと認識している。できれば案1、2の中で決めたいと考えている。それと、キャッチフレーズについても「生涯健康都市」というのは、意外といろいろなところで使っている。「健康躍進都市」もあまり使われていない。ネットで調べた状況だが、「健やか未来都市」というのは使っているところはない。これでもう1回考えたい、事務局としても保留。」

(会長)

「キャッチフレーズも今の説明だと、案2か案3が独自性もあり、意味づけがしやすい。未来都市というのが少し気になるが。」

(委員)

「健康に関心のある県だねということをよく耳にする。県外の人に言われるのでそれもいいと思うし、はじめは3案といいと言ったが、1案でもいいと思う。」

「第3章について」

～身体活動・運動・スポーツ～

(委員)

「住民自治協議会で来年度重点事業で『ほんわか健康塾』を広げていこうと。各地域で健康づくりを進めていこう、対象は障害のある方、ほとんどはお年寄りが対象ですけれど。これを言葉として盛り込むのはどうか。高齢者向けの事業で、各地域に指導者を派遣するもの。」

(事務局)

「地域活動支援課に確認し、具体的に盛り込めるのであれば、検討してみる。」

(会長)

「今、住民自治協議会で議論されていることなのか？」

(委員)

「具体的に、去年からやっているところもある。指導者を養成、具体的に計画はできている。」

(会長)

「より市民に近いところでの計画」

～栄養・食生活、食育～

(委員)

「指標に『減少傾向』とあるが、違和感あるが、意味がよくわからない。」

(事務局)

「記載ミス。『減少』でお願いしたい。」

(会長)

「数値目標になっていない、意味が伝わりにくい。」

(事務局)

「この後にも数値ではなく、「減少」とか「増加」とかあるが、実はこの部分については、長野市の数値がかなり良い、全国水準よりよい、国の目標も達成している、指標から外すかとの議論もあった、そういう意味でなかなか指標を設定しづらい。数字的に良いので。」

(会長)

「数値の統計を取るのは、計画期間中に何回もあれば、いいのですけど。」

(事務局)

「アンケートは毎年とらないが、統計はとれるものもある。」

(会長)

「計画期間が終わったときに「減少」と。計画期間中にずっと見ていくものではないので「減少」だけでよい。」

(委員)

「指標2はBMIですね。指標3でもBMI出している。BMIは身長と体重で出す。65歳以上の人のBMIはどれだけ信用できるか。身長も小さくなる。低栄養は医学的にはアルブミン、たんぱく質などから判断する。指標2と指標3、言葉は変えてあるがBMI。低栄養傾向の高齢者を、『65歳以上のBMI20以下』とするのは、低栄養はBMIだけでは判断しないので、指標としては適切でないのでは。」

(事務局)

「確かに全てBMIでとっている。国の「健康日本21」でも『65歳以上のBMI20以下』は低栄養傾向として提議している。ここでも「傾向」として。指標を使用している。あくまで傾向として、痩せすぎのお年寄りを減らしたいという意味でもこの指標を使用したい。」

(委員)

「BMI20は医学的にまだ正常値。低栄養傾向とも言えるのか。」

(事務局)

「介護予防の観点から、比較的きつめにとっている部分はあると思う。やせている、低栄養である、ではなく「傾向にある」ということ。BMI20以下の人は要介護状態になるリスクや死亡リスクが高くなる国の指標でも示されている。そこでBMI20は有用であると考えている。言葉として「低栄養」が正しいかどうか。一つの指標として使って生きたい。」

(委員)

「BMI20以下を低栄養ととらえられかねない。BMI20は医学的にまだ正常値。誤解を招きやすい。」

(会長)

「数字を書き換えるか、今のような説明を加えるか。」

(委員)

「20以下は要介護になりやすいというデータがあればよいが、低栄養である、ということを書いていいのか。だから20以下は死亡率が高いんだというデータがあれば、それを示せば20を変える必要がないが。僕らは説明に困ってしまう。違和感がある、どう説明するのかな、と思った。」

(事務局)

「検討させていただきます。」

～こころの健康・休養、飲酒、喫煙～

(委員)

「長野県は未成年の自殺者が全国でも高い。市の取り組みに国が方針を出している「SOSの出し方教育」を記述に加えてはどうか。」

(事務局)

「未成年の自殺は周囲に与える影響が大きいと言われている。国でも学校現場でどのようにSOSをみつけていくかに重点をおいてやっていくという。学校現場と連携して取り組んでいきたい。」

(委員)

「未成年の自殺数が二桁になってしまっている。将来を担うのは若者たち。これは特出しして注意喚起をしたほうがよいと考える。」

(事務局)

「精神保健福祉センターの助言を踏まえながら、この計画に入れていくのか、来年度以降の自殺対策計画に入れていくのかについても検討しつつ、細かい現状分析をしていきたい。」

(会長)

「アルコール40gは分かりづらい。市民に向けての計画であるならば工夫が必要ではないか。」

(事務局)

「確かに分かりづらい。換算式を追加する等検討する。」

～歯・口腔の健康～

(委員)

「指標3の今後調査とあるが、具体的にどのような方法があるのか。歯科医師会も行政と連携し、具体的な数値も提供できる。個々で確認できるRSSTもある。」

～がん、循環器疾患、糖尿病～

(委員)

「循環器疾患と歯周疾患との関連性が言われているこの計画においてもその関係性について取り上げることを検討して欲しい。」

(事務局)

「歯周疾患と全身の疾患に関連性があることは認識している。市民への啓発につなげるために本計画に盛り込むことも前向きに検討していきたい。」

～基本的方向3について～

(会長)

「主観的健康感という言葉が市民にうまく伝わるかどうか。それにうまく指標が対応するか。」

(事務局)

「既にアンケートは取っているが、時系列が分からない。また改めてアンケートをとり、それを踏まえて目標値を検討していく。」

～基本理念・キャッチフレーズについて～

(委員)

「基本理念について、案1の『生涯にわたって』というのが高齢者をイメージしてしまう。『市民ひとりひとりが』や『みんなが』等、もっとやわらかい表現に変え、子どもから高齢者まで対応できるようにしたらどうか。また、末尾の『実現するまち』を『実感できるまち』にしたほうが言葉が通るように思う。

キャッチフレーズについて、全て表現が固いように感じる。『健康を感じる都市・ながの』のようにしたほうがやわらかいイメージになる。」

(事務局)

「『感じる』に関連して、『健康実感都市・ながの』も考えたが、長野市総合計画の『幸せ実感都市・長野』と表現が重なってしまう。使用してはいけないというわけではないが。実現＝行政主体、実感＝市民主体というイメージはこちらにもあるので、もう少し事務局で検討します。」